



Vol.1 華やかなお祭り「饅頭節」

今回は香港出身のジョイス・ラムさんからお話を伺いました。

ジョイスさんが生まれ育ったところはどうな地域ですか？

私が育ったのは、香港にある香港島というところですよ。
島の北部にあるセントラルは香港の政治や経済の中心地でとても栄えています。
また、香港の面積は約1100平方キロで東京都の半分ぐらいしかありませんが、そこに約700万人が住んでいて、人口密度がとても高いです。本当に、どこに行っても混んでいます。そのために家も高層マンションが多くて、一般的な家は日本ほど広くないです。
でも小さいからこそ便利なのところもあります。交通機関が発達しているので車を持っていなくてもいろんなところに行くことができますよ。



ジョイスさんは日本人に対してどんな印象を持ちましたか？

日本人はグループ行動が好きだなと感じます。よくあるケースは、人気歌手のスタイルを真似することです。同じような格好をしていないと仲間として認められないような印象を受けました。もっと自分の個性を持った方がいいと思いますね。

日本の習慣で驚いたことはありますか？

普段の日本人のマナーはすごく良いと思いますね。例えば、満員電車の中で他の人に迷惑をかけないように、みんな綺麗に並んでいるところとか。でも、降りる

ときに必死で押し込む姿はかなりノーマナーですね。
それともう一つ、お酒を飲んで酔っている人がすごく多い！
“なんで酔っ払いがこんなに多いの？”“なんで道で寝ちゃうまで飲むんだらう！？”といつも思います。

それでは次に香港について教えてください。香港にはどんなタイプの人が多いのですか？

香港人はストレートで自分の意見を言う人が多いので、間違いなくコミュニケーションは取れます。でも、香港にも日本語でいう「謙遜は美德」と同じ意味合いの言葉があって、そういう感覚も持ち合わせています。
私自身は、自分の自慢できるところがあればどんどん認めたいのがいいのではないかと思いますけどね。

香港ならではのイベントを紹介してください。

長洲(チュンチャウ)島の饅頭節(長洲太平清醮)というお祭りです。
長洲島は、香港島のセントラルからフェリーで40分位離れたところにある島です。船着き場のそばには海鮮料理屋などが立ち並んで賑わっていますが、その雰囲気はとても懐かしい感じで、それほど人も多くなく、昔ながらののどかな風景を見せてくれます。その島は、年に一度だけ華やかなお祭りで島全体が賑やかになるんです。そのお祭りが、この島に古くから伝わる『饅頭節』です。
漁民の守り神の誕生日を祝うもので、毎年4月か5月の8日間にわたって行われます。
お祭りの会場には、たくさんの饅頭を付けた大きな3つの塔や大きな神様の像が建てられます。ちなみにこの饅頭の塔は20メートル程あり、取り付けられているなんと本物の饅頭なんです。夜には男の人たちが塔に登り、饅頭を取って点数を競う競技が行われます。
そして、このお祭りでは一番華やかなのは子供たちのパレードです。獅子舞や楽隊、旗を持った人たちもパレードしていますが、やはりこの日は、歴史上の人物などに変装した子供たちが主役です。その子供たちは、棒に片足だけ支えられ、高く持ち上げられた状態でパレードするんですよ。なんだか宙を泳いでいるように見える不思議な光景です。



年に一度、島中が賑わう饅頭節。饅頭が貼り付けられた塔や宙に浮かぶ子供達など、他の国ではなかなか見られない珍しいお祭りですね。
今回は香港の結婚式についてお届けします。



Vol.2 結婚式は真っ赤なドレスで

前回に引き続き、香港出身のジョイスさんからお話を伺いました。今回は香港の結婚式です。

香港の結婚式について教えてください。

香港の結婚式は日本に比べて雰囲気は賑やかでラフです。また、会費制の場合が多くて、平均的な会費は1万円くらいになります。

式の流れも結構違うと思います。

日本では会場を変えて、2次会・3次会をするケースがありますが、香港の披露宴は午後から夜までずっと同じところで行われますね。

また、婚姻登記処という役所内で非常に簡単に済ませてしまうカップルもいます。



それでは、結婚式の一日の流れを紹介してください。

まず、結婚する前日は、大体新郎新婦は別々の場所で過ごします。新郎は友人応援団と「最後の独身日」のお祝い、新婦は親友グループと式の準備をします。

その後、決まった時間に新郎と応援団が新婦のところに迎えに行きます。新婦の家の前に着くと、新婦応援団は新郎応援団を簡単に家に入れないようにいろいろなゲームをさせ、新郎側はそれに従わなければなりません。そこには新郎の愛を確かめるといった意味があるようで、新婦側からそれを認めてもらうと、ようやく新郎新婦が揃ったら、次は新郎の家へ向かい、両親や尊敬している年輩の方にお茶を差し上げる式を行います。

奥で待つ新婦のところにたどり着けるんです。それが済んだら、教会または婚姻登記処に行って結婚式を開きます。

結婚式を終えて、大体午後2時頃になると新郎新婦と自分の家族と親友応援団達が集まり披露宴が始まります。

披露宴会場では夜の食事が始まるまでの時間、みんなで麻雀をする習慣があります。食事は大体8時頃から始まることが多いので、それに合わせて会場に駆けつける人も多いようです。

披露宴で行われる新郎新婦の挨拶、ゲーム、ケーキ入刀の式は日本と共通していますね。

また、花嫁のドレスも香港ならではの伝統的な衣装で、真っ赤なベースの生地にか白糸の刺繍がたくさん入っているのですが、刺繍が多ければ多いほど値段が高くなります。

アクセサリーもゴールドのものを多く身に付けば付けるほどお金持ちの象徴とされています。



それでは、結婚後の男女の役割は分担されていますか？

二人とも仕事をしている場合は子育ても夫婦でしますし、それほど男女の差はないですね。

香港に“男らしい”“女らしい”という考え方はありますか？

香港ではやはりLadies Firstの意識の高い男性が“男らしい”とされます。例えば、男性と女性が一緒に席では割り勘があまりなく、女性は大体奢ってもらいます。

日本人の友達によく「香港の女性は強いね」と言われていますが、実際そうでもないんです。ただ、香港の女性ははっきり自分の意見を言うので、気が強そうな感じに見られることが多いですね(笑)

新婦への愛が試されたり、常にレディーファーストを求められる香港の男性たち。そんな環境で生き抜くことは男性たちにとってはとても大変そうですが、逆に女性の視点から見るととてもやさしい社会であると言えそうですね。

今回で香港のお話は終わり。

次回からはニューヨークからお届けします。